

# 大空 (生徒・保護者向け) 22号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和2年10月22日(金)

## オンラインで伝わりにくいもの(1・2年遠足挨拶)

### □本日の概要

- マスク着用が常態化する中、私たちは慢性的なコミュニケーション不足にあるのではないだろうか。
- オンラインでは人の熱意や思いが伝わりにくい。また、オンラインでは身振り手振りで伝えていた思いが伝わりにくい。
- Withコロナの下、今までは自然に構築されていたコミュニケーションや人間関係を意図的に育てていく必要がある。
- 今回の遠足を、新たな「□□□」と出会う機会にして欲しい。

### □マスクをはずしはじめた保育士たち

3年生には申し訳ありませんが、今日は1・2年生の皆さんは遠足です。1学期に歓迎遠足が実施できず、この秋まで延期になっていました。宮崎西高校としては、今学期初めての校外行事になります。

この時期に、遠足を企画してもらったのは、1学期に実施できなかったというだけではない理由があります。それは、このコロナ禍の中で、皆さんが慢性的なコミュニケーション不足の状態にあるのではないかという危惧があるからです。

NHKの「おはよう日本」の中で、こんなレポートがありました。それは、ある保育園の取り組みでした。

保育園に限らず、先生達は感染予防のために

マスク着用を徹底していますが、ある保育園では、マスク着用を続ける中、先生達から、0歳～1歳の子供の言葉の発達が遅れているのではないかという声が上がってきたのです。

幼児は言葉を耳だけで覚えるわけではありません。幼児は、身近な大人の口の形を見て、口の動かし方や発音を覚えていくのです。表情だって同様です。幼児は、身近な大人の表情を読み取って、まねをしながら表情を覚えるのです。感情があるから表情があるだけではなく、表情をまねることで感情を覚え、さらに言葉で意味づけをしていくのです。だから、大人の表情を伴わないアニメなどばかりを見せて子守をさせることには弊害があり、絵本の読み聞かせなどが大切であるといわれているのです。

コロナの中、マスクで大人が表情を見せなくなっていることと、幼児の言葉の発達の関係の研究について、私も寡聞にして把握していませんが、保育園のベテランの先生方は、経験的にこの状況に危機感を覚えたようです。そこで、この保育園では、対策として、屋外保育を積極的に取り入れ、保育士もマスクを外したり、マスクをフェイスガードにかえて、口元を見せる努力を始めたそうです。すると、子供たちの表情も豊かになり、言葉が出始めたということでした。

マスクをしていると伝わらない。マスクをしていると、読み取ることができない。これは、幼児だけの問題でしょうか？今、私たちが慢性

的に抱えているもどかしさ、隔靴搔痒、何となく抱えるぎこちなさは、今、コロナの中、十分なコミュニケーションが阻害されているということも関係しているのではないのでしょうか。

## □オンラインでは伝わりにくいもの

また、同じくNHKの「おはよう日本」で、コミュニケーションを研究しているある女性研究者？のお話がありました。現在、オンラインの会議やテレワークが活発になってきていますが、オンラインでは伝わりにくいもの、それは「熱」であるとその方は語っていました。「熱」すなわち、本人の熱意や思いです。また、人は言葉や表情の他に、身振り手振りなど、様々な方法で思いを伝えています。しかし、オンラインでは非言語のコミュニケーションが伝わりにくいということでした。

こう考えると、従来のように、直接話し合うコミュニケーションに勝るものはないのは事実でしょう。でも、今は我慢の時であるのも避けられない現実です。だからこそ、Withコロナの今、私たちは、今までなら自然に構築されていたものを、意識的に創っていく、育てていく必要があると思うのです。

今日は、日頃とは違うコミュニケーションの機会であり、新たな人間関係を構築する機会です。直接語る機会、身振り手振りを加えて感情を表現することを大切にしてください。そして、普段、教室で学習している時では気付くことができなかった、友だちや先生の新たな面に出会って欲しいと思っています。

## □出会い

通信に掲載した詩は、2002年に亡くなった詩人、吉原幸子さんの「出会い」という詩です。この詩は、HPの紹介文によると、1979年6月、東京の地下鉄千代田線、明治神宮前

駅のプラットフォームに掲示されたのだそうです。ホームで地下鉄を待つ乗客たちは、プラットフォームの詩を眺めながら、何を思ったことでしょうか。電車を待つしばらくの間、□□□に自分の言葉を入れ、自分だけの出会いのドラマを構築したのかもしれない。

今日過ごす友だちは、すでに半年を共に過ごした級友ばかり、今更出会いもないだとうと思うかもしれませんが、皆さんは誰もが未知の我であり、友だちのことも知らないことがたくさんあると思います。遠足の日、今日は勉強のことはちょっと忘れて、「□□□」と「□□□」の新たな出会いの機会になって欲しいと思います。

## 一、九五三、一二五通りの詩

□□□の部分に「あなた・わたし・だれか・ひとり・みんな」のどれかの言葉を入れ、あなただけの詩を完成させてください。

## 出会い

吉原 幸子

□□□の底に ひそかな傷があるように  
となりの□□□にも かなしみがある  
だから□□□たち ほほえみあえる  
あるときは 二十年まえの□□□と  
二十年のちの□□□に囲まれて歩く  
□□□はひとり  
□□□もひとり  
それでも 次の柱のかげで  
□□□は□□□に  
激しく出会うかもしれない  
電車はいつも  
過去から未来へと走っている